



日高山脈館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

第5号 2010.12.

「石ころ鑑定会」開催しました。

岩石、化石、宝石…。どんな“石”でも鑑定できます。

11月7日に「博士に聞こう！この石な～に？～石・鉱物・化石のお宝鑑定会 2010～」（通称「石ころ鑑定会」）を開催しました。

この鑑定会では、鑑定希望者が持参した気になる石や鉱物、化石などを、岩石や化石の専門家（今回は加藤孝幸氏、川村信人氏、櫻井和彦氏の3名）が鑑定しました。結果は山脈館オリジナルの鑑定書として発行しました。（ただし、金額についての鑑定はしていません）。

毎年1回開催し、今回で通算8回目となるこの鑑定会ですが、今回も、専門家といえども驚嘆したり、鑑定にあたっては化学分析を要したりするような珍しくも貴重な岩石や化石などが持ち寄られ、熱心な参加者と専門家との会話も大いに弾み、会場は常に盛況でした。

これからも、このような鑑定会を開催したいと考えておりますので、少しでも気になる石があれば、来年の鑑定会にぜひご参加ください。なお、岩石に関する内容であれば、普段でも山脈館職員が対応いたします。



日高山脈ネイチャーセミナー 2010 第6回「冬の自然観察会（仮）」
3月上旬 開催予定！

特集 小惑星『イトカワ』からかんらん石が!?

日高のかんらん岩とは、どちらがうのでしょうか？

ご存知のとおり、先日小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」から、かんらん石や輝石の粒子を持ち帰りました。

「イトカワ」（図1）は、地球上または着陸前の「はやぶさ」から観測がされている小惑星で、長軸535m、「ラッコ型」をしていて、角ばった礫で構成されています。密度1.9g/cm³（空隙率はおおよそ40%）、表面にはかんらん石や輝石が多く認められていて、それらの成分は図2右上の円の範囲内であると推定されています。今回採取されたかんらん石や輝石の成分が、右上の円の範囲内に認められることや、地球で見られる岩石が認められないことなどから、これらはイトカワのものであると断定されました。

実はかんらん石や輝石は、日高に見られる「かんらん岩」に大変多く含まれています。

両者の違いはたくさんあるのですが、その1つは成分の違いです。日高のかんらん石や輝石の成分は、図2左下の円の範囲内です。「イトカワ」のかんらん石や輝石は、日高のものより明らかに鉄が多いということです。

さて、日高山脈館では、今回の「はやぶさ」と「イトカワ」から採取された鉱物についてのミニパネル展示を企画中です。JAXAなどからの資料に解説をつけた展示で、紙面の都合で掲載できなかったことも解説する予定にしております。開催日時等が決定しましたら、お知らせいたします。



Release 051101-1 ISAS/JAXA (ISAS/JAXA より)

